

全 景

ハンネス・マイヤー作 ベルリン近郊ベルナウにある労働組合學校

上の寫眞の最も手近にある建物が教室並に屋内體操場。それに續いて斜にジグザクに配置されてゐるのが生徒の寄宿舎である。尙これにつゞく建物には講堂や食堂が含まれ、向ふ側に入がある。その左に並んでゐる小さい建物は職員の住宅である。

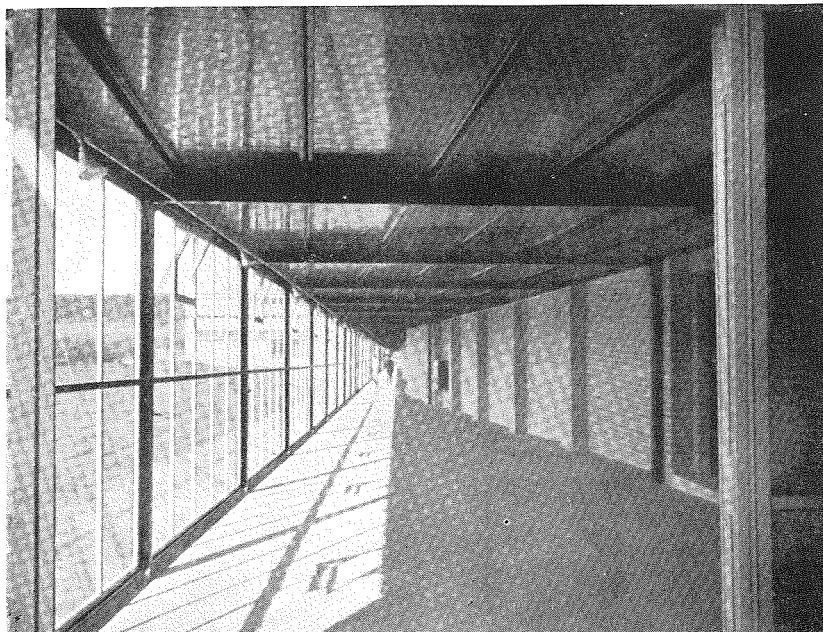
この學校は 120人の生徒を收容する。合計 60の居室があり、二人宛一室にはいることに

なつてゐる。

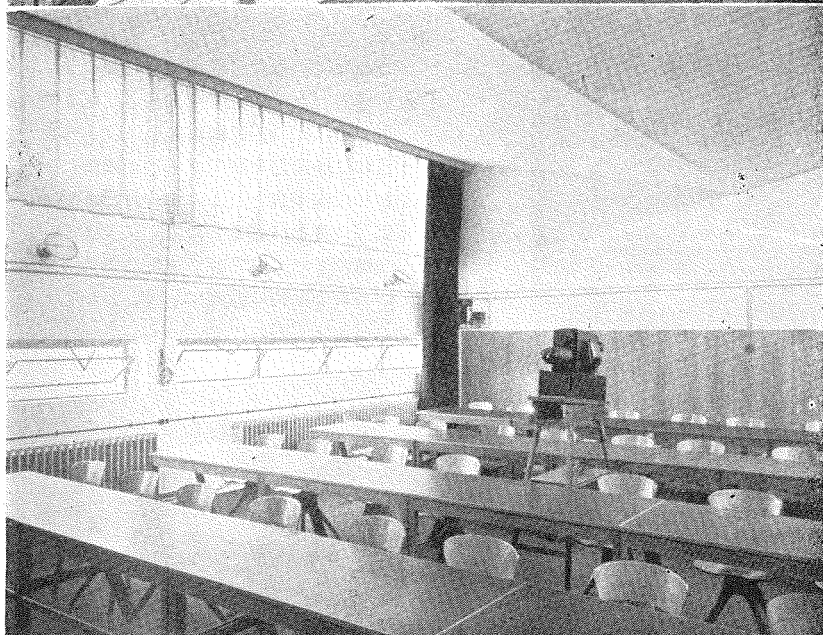
これ等すべての部分には、あらゆる末梢的裝飾がはぶかれ、工學的な考慮があくまで拂はれて居り、その純粹な、むしろ土木的な技術には感嘆させられる處が頗る多い。

次の二つの寫眞はその例で、上は前面の廊下、照明用の電燈を窓際に設けて晝夜を通じて殆んど同様な採光法がとられてゐる。下は

廊 下



教 室



教室で、教室としての採光は遺憾なく發揮されてゐる。傾斜した天井の面に反射した光は教室の隅々まで平等に明るくすることが出来る。夜間の照明も同様にされてゐる。

構造はもとより、音響、視覚の考察も完全で、ボタンを一つ押せば黒板その他の設備が壁體の中からせり出して来る。

*ハルネス・マイヤーはかつて、バウハウスの校長であつた人で、バウハウスの工藝的なツレツタムチリズムを工業的正確さに精算するべく努力した事で有名である。現在は正當な工業が最も大量に生産出来るといはれるソ聯邦にあつて建築的な活動をつづけてゐる。

(川喜田煉七郎)